

2025 年度、一般社団法人七尾青年会議所は「未来を想い、いま動く一共に創る未来―」をスローガンに掲げ、活動を行ってまいりました。令和 6 年能登半島地震からの復旧・復興が続く中で迎えた本年度は、理事長として「地域の未来に本当に必要なことは何か」を常に問い続け、予定者の段階から何を優先すべきかを常に考えながら過ごした一年半となりました。短期的な成果だけでなく、数年先、数十年先を見据えた“いま動くべきこと”として、何が重要課題か、周囲の状況を常に把握できるように心掛け活動させていただきました。

その中でも今後の地域にとって不可欠であると考えたのが「関係人口」に関する取り組みです。人口減少や担い手不足が進む中、地域内だけで完結するのではなく、地域外とのつながりをいかに継続的な関係へと育てていくかが重要であると考え、年間を通じて 4 回の連携事業を実施していただきました。行政や関係団体と連携しながら実施したこれらの事業は、今後の地域づくりに向けた土台づくりとして、一定の意義を持つものになったと感じています。七尾・中能登という地域に「住む」「訪れる」だけでなく、「関わり続ける」人を増やしていくことは、今後の地域づくりにおいて欠かすことのできない視点です。外から人を迎え入れ、価値観や知恵を交わし、それをこの地域の力に変えていく。その一歩として、青年会議所が担う役割は大きいものであったと感じています。これらの事業を通じて得たつながりや気づきは、今後の運動に必ず活きる財産になったと考えています。

また、震災を経験した地域として、防災・復興に向き合う取り組みにも力を注ぎました。北陸信越地区協議会主催の防災会議への登壇や、埼玉ブロック協議会主催の防災事業への登壇、SDGs 関連以外の取り組みで初の試みとなった、鵬学園様へ出前授業「防災教室」では、発災当初から現在、そしてこれからについて、我々の経験をもとにお話しする機会をいただきました。8 月には「おやこで！あそんで学ぶ！！防災キャンプ」を行い、ドローンを活用した津波速度体験や薪を使った火起こし体験、親子でつくる自分たちだけの防災ロードマップ作成など、新たな試みにも挑戦し、防災を知識だけではなく体感して“自分ごと”として捉えてもらう機会づくりを行いました。

そして、本年度は石川ブロック協議会主催の「いしかわコンファレンス」を、主管 LOM として開催するという大きな役割も担わせていただきました。七尾の地でのブロック大会は、2020 年に開催予定であったものの、コロナ禍により全ての行程をリアルで開催することが叶わず、長年にわたり実現できていなかった経緯があります。そのような背景を踏まえ、約 13 年ぶりとなる現地開催を第 55 回大会という一つの節目のタイミングで実現できたことは、七尾青年会議所にとって非常に意義深いものとなりました。震災後という厳しい状況下

ではありましたが、県内外から多くのメンバーを迎え入れ、七尾・中能登の現状と想いを発信できたことは、主管 LOM としての責任を果たす一つになったと考えています。また 11 月に開催された中小企業家同友会主催の「ギネス世界記録®挑戦 in 和倉」では共催として運営させていただき、無事に市民の皆様と共にギネス記録を樹立することができました。市民町民の皆様が笑顔になれる復興イベントをはじめとする各種事業では、やはり人と人とのつながりの力が大切なのだと改めて強く実感することができました。LOM 内の信頼関係はもちろん、関係諸団体との関わり方や、ブロック、地区、そして日本青年会議所への出向を通じて築いてきた全国の仲間とのつながりが、様々な事業を支える大きな原動力となりました。特に「七尾のためなら行くよ」と二つ返事で駆けつけ、泥臭い部分まで共に担ってくれた JAYCEE の仲間の存在は、青年会議所運動の価値そのものだと感じています。

そして組織運営においては、成果だけでなくプロセスを大切にしてきました。関係団体との連携が必要な事業が多い中で、計画や調整に時間をかけることは信頼を守るために欠かせません。同時に、日頃からの対話を重ねることで、メンバーが安心して挑戦できる環境づくりを意識して専務理事には育てていただきました。復興イベントなど大きな事業において、メンバーが自主的に動き出す姿に、対話の積み重ねが行動力につながるのだと確信しました。

さらに、本年度は次年度へとつながる人財育成にも注力しました。次年度理事・役員予定者を対象としたスタートアップセミナーを開催し、経験豊富な先輩諸氏から青年会議所運動の意義や覚悟を学ぶ機会を設けました。経験を通じてしか得られない学びを、次の世代へと紡ぐ一年になったと考えています。

結びとなりますが、年初に掲げたスローガンは 1 年の活動を経て、より深く、より強く、より広域的な意味をもつものとなりました。そんなことが実現できたのは、メンバー・オブザーバーの皆様のお力だけではなく、その一人ひとりを支えてくれたご家族や関係者の皆様の支えがあったおかげであると感じています。全ての方々に深い敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

震災を経験した私たちにとって、人と人とのつながりは、組織運営においても、地域づくりにおいても、何よりの力になることを改めて実感しました。この 1 年で得た経験や気づきが、今後の七尾青年会議所の活動に活かされ、次の世代へと確実につながっていくことを心から願っています。

理事長として至らない点多々あったかと思いますが、七尾青年会議所シニアクラブの皆様、関係諸団体の皆様、そして共に活動してくれたメンバー・オブザーバーの皆様の支えなしに、ここまでやってくることはできなかったと痛感しております。

全ての皆様に心からの感謝を申し上げ、2025 年度の理事長活動報告とさせていただきます。一生忘れることができない、素晴らしい経験をありがとうございました。